



THE ONE MAKE RACE FESTIVAL 2021 FUJI

8-9.May.2021



MINI CHALLENGE JAPAN.2021

Round 1 RACE 1



全国4ヶ所のサーキットを転戦して行われる「MINI CHALLENGE JAPAN.2021」は、ここ富士スピードウェイで2021年度の開幕戦を迎えた。土曜日朝の予選でトップタイムを出したのはJCWクラス#2 EX-FORM F56JCW 後藤比至至 1'56.373でポールポジションを獲得。フロントローには#17 BRP★MINI F56JCW 鈴木健自が1'57.965で並ぶ。CPSクラスでは#77 ガレージビットハウスF56CPS 古田聡が2'08.378でトップからのスタート。好天に恵まれた決勝では、好スタートを決めた3番グリッドの#9 IDI平田空調RH坂井F56JCW 平田雅士がオープニングラップで2番手に上がる、その後は#17 鈴木と激しいバトルの間にトップの#2 後藤はどんどん後続を引き離しにかかり、20分+1週の決勝をポールトゥウィンを飾った。CPSクラスは#77 古田と#4 モレキユールR'SDESIGN MINI 谷岡力が前半こそバトルになったが、後半で#77 古田が逃げの体制になりそのままトップでチェッカーを受けた。レース後の優勝ドライバーコメント#2 後藤「昨年は毎回2位で一年半ぶりくらいに優勝できてとても嬉しいです。トップに立ってからも最後まで気を引き締めて走り切りました」#77 古田「スタートではちょっと失敗しました。抜き返した周にダッシュをかけたら、後ろが競い合いを始めてくれて引き離すことができ、自分にとって良い展開のレースとなりました」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト JCW

Rank No.	Name
1	2 後藤 比至至
2	9 平田 雅士
3	17 鈴木 健自
4	57 阿部 良太



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト CPS

Rank No.	Name
1	77 古田 聡
2	4 谷岡 力
3	18 奥村 浩一
4	56 石井 一輝
5	6 伊藤 聡夫
6	19 吉田 知史

MINI CHALLENGE JAPAN.2021

Round 1 RACE 2



第2戦は第1戦の結果にトップからの60%をリバースグリッドというレギュレーション。したがってポールポジションは#9 平田雅士、フロントローに第1戦優勝の#2 後藤。CPSクラスは最前列からスタートは#56 Daiwa Group MINI 石井一輝、並ぶのは#18 BRP★MINI岡山F56CPS 奥村浩一となっている。スターティンググリッドについたあたりから、一面に雲に覆われてきて、雨こそ落ちないものの、路面温度はけっこう下がってきたようだ。そんな中、スタートか切られ#9平田がTGRコーナーは抑えたものの、オープニングラップを終えストレートに戻ってきたときには#2 後藤がトップに立つ。その後もファステストラップを更新しながら周回を重ねる#2 後藤は徐々に後続を引き離し、トップチェッカーを受けた。CPSはクラス4番手グリッドからのスタートながら2周目にはトップにたった#77 古田が2連勝した。レース後のコメント#2 後藤「2連勝出来てとても嬉しいです。謙虚な気持ちで今年も頑張ります。この流れでここ富士でのS耐24時間も頑張らなきゃ！」#77 古田「タイヤの温めかたも上手くいってスタートは良かったです。前のマシンの隙をついて前に出られましたし、マシンの調子もチェックしながら走れました。2連勝出来たので今シーズンはチャンピオン狙っていきます」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト JCW

Rank No.	Name
1	2 後藤 比至至
2	9 平田 雅士
3	57 阿部 良太



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト CPS

Rank No.	Name
1	77 古田 聡
2	4 谷岡 力
3	56 石井 一輝
4	19 吉田 知史
5	32 板倉 麻美

TOYOTA GAZOO Racing
86/BRZ Race
Round 2
Clubman Series Open Class



2020年は富士スピードウェイでのレースが無かったため、久しぶりの開催となるTGR86/BRZレース。2021シーズン2戦目となる本大会は、OPENクラスは57台のエントリーし、そのうち52台が45台の決勝レース進出をかけて2つの組分けで行われた予選に出走した。ポールポジションは予選2組トップの#559 ADVAN MAX ORIDO 86 岡田 整 2'06.190。2番手は#209 SYMS・楡クリ BRZ 五賀 貴男 2'06.907となった。決勝ではスタート直後から上位陣の激しいトップ争いがあり、ポールスタートの#559岡田はトップを守ったが、1周目終了時には4番手スタートの#124 C-ENGテックMS 86西澤嗣哲が2番手まで上がった。その後僅差での争いが続くが、一時は4番手まで順位を落とした#209五賀が順位を戻し、チェッカーは#559岡田、#209五賀、#124西澤の順となった。ポールトゥウインの#559岡田のコメント「スタートは上手く決まりました。ヘアピンでオイルフラッグが出て後ろとの差が少なくなりましたが、後方で2位争いをしてくれたおかげで逃げられました。昨年までに自分だとか何かミスをしていたかもしれませんが、今回は落ち着いて走り切りました」



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Open Class

Rank No.	Name
1	559 岡田 整
2	209 五賀 貴男
3	124 西澤 嗣哲
4	19 咲川 めり
5	310 岡田 友輔
6	870 堀 瞬佑

TOYOTA GAZOO Racing
86/BRZ Race
Round 2
Clubman Series Expert Class



昨年はレースごとに優勝者が異なる接戦が繰り広げられた EXPERTクラスは29台のエントリー。ポールポジションは2'05.689で#556 86RACER'S IDI 86 呉良亮。2番手は0.283秒差で開幕戦優勝の#522 GB CAMP 86 地頭所 光。3番手には2'05.924で#703 埼玉トヨタ・エンドレス86 花里祐弥と昨年上位を争った実力のあるドライバーが並んだ。決勝では各所で何台もが横並びでコーナーに入っていく激しい展開。6台で繰り広げられたトップ争いは、6周目に#522地頭所が#556呉を追い抜き1位となったが、翌周に#556呉が再びトップを奪い返した。ファイナルラップとなる10周目まで激しいトップ争いは続き、最終コーナーでトップ#556呉のイン側に若干の隙があり#522地頭所がそこに飛び込んだが2台が接触。#522地頭所がそのままトップチェッカーとなったが、レース終了後に30秒のタイムペナルティが課せられたため、正式結果は#38 N中部 GRGミッドレス86 神谷裕幸が優勝となった。2位は#380 徳島トヨタ BS 菱井将文、3位は#556呉となった。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Expert Class

Rank No.	Name
1	38 神谷 裕幸
2	380 菱井 将文
3	556 呉 良亮
4	703 花里 祐弥
5	511 上松 淳一
6	51 廣田 光一

TOYOTA GAZOO Racing
86/BRZ Race
Round 2
Professional Class



国内のトップドライバーが集結して毎回激しい戦いで見ごたえのあるプロフェッショナルクラス。土曜日の予選でポールポジションを獲得したのは#41 C.S.I Racing 86 坪井翔の2'04.164。フロントローに並ぶのは#25 GRTokyoRacing86 水谷大介 2'04.462。日曜日の決勝は晴天に恵まれて気温22度、路温45度という絶好のレース日和。絶好のスタートで#25水谷がトップに立つも#41坪井がコカ・コーラコーナーでトップを奪い返すという激しいトップ争い。そのトップ集団の中で予選7番手からじわじわと追いついてきた#10 OTG TN 滋賀86 菅波冬悟が4周目にトップに立つ。その後は徐々に2番手争いを繰り広げる後続集団と少しずつ差を広げ、10週の決勝で最初にチェッカーを受けた。2位には#98 神奈川トヨタ☆DTEC86R 近藤、3位には予選14番手からジャンプアップしてきた#31 ケーエムエスフェニックス86 青木孝行が入った。レース後の#10菅波のコメント「この週末、試行錯誤しましたがマシンのバランスが良くパフォーマンスを引き出せました。予選ではアタックラップをちょっと失敗しましたがそれをこの決勝で上手く前に出られて良かったです。このチームとしては初めての優勝でとても嬉しい！」と語った。



Winner



RESULT リザルト Professional Class

Rank No.	Name
1	10 菅波 冬悟
2	98 近藤 翼
3	31 青木 孝行
4	160 吉田 広樹
5	293 岡本 大地
6	80 宮田 莉朋



今シーズンも全4戦+特別戦でここF SWとスポーツランドSUGO、ツインリンクもてぎを転戦して行われるLOTUS CUP JAPAN。今回が開幕戦となっている。今回はEXIGEのClass1が7台、ELISE他のClass2が12台のエントリー。予選でトップタイムを出し、ポールポジションとなったのはClass1 #11 auto-moda EXIGE 小林一景 1'54.594、フロントローには章典外だが#2 SYNTIUM LCI EXIGE S 佐藤孝洋が1'55.050で並ぶ。Class2では#47 ロータス横浜センボクEXIGE 飯田敏雄が2'00.684のコースレコードを更新でトップからのスタートと決まった。決勝ではスタートが20分程遅れてたもののこのワンメイク祭りの最終レースとして16:50にスタート。#11小林がトップを守り、その後ろでは2番手争いが最後まで熾烈といった展開になり、10週のレースは#11小林のポールトゥウィンとなった。Class2では開始からトップを守る#47飯田に総合12番・クラス6番手グリッドからポジションアップしてきた#5クラブウィザム4CR-EXIGE 篠原祐二が4周目にトップに立ち、そのままチェッカーを受けた。レース後のコメントClass1 #11小林「後ろがバトルをしてくれたので引き離せました。スタートはちょっと失敗しましたが、TGRコーナーを取れて良かったです」Class2 #5 篠原「8年ぶりのレース復帰！ 皆さん上手なので勉強させていただきました」



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Class 1

Rank No.	Name
1	11 小林 一景
2	1 清水 友一
3	22 東 浩平
4	43 笹嶋 邦則
5	15 荒田 良浩



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Class 2

Rank No.	Name
1	5 篠原 祐二
2	47 飯田 敏雄
3	24 長澤 宏昭
4	77 ババシユー
5	3 高橋 基夫
6	54 ITO TAKASHI

N1500/N1400/N1000

Audi A1 Fun Cup

Round 2

Audi Sport



今シーズンの開幕戦を迎えたこのカテゴリー。予選・決勝とも好天の日曜日に行われた。予選で総合トップタイムはN1400クラス#72 アレスQSグローバルμ82 高橋ノボル2'11.660。Audi A1は総合4番手のタイムで#107 並木産業Audi A1 並木重和 2'15.114がトップからのスタート。N1000では#54 FRANKEN2 Vitz 半田健一郎の2'23.421がトップタイムとなっている。決勝ではN1400クラス4台のトップ争いがコンマ差で終始続く激しい戦い、5周目にはフロントロースタートの#21 DLμNUTECスターレット 大竹直がトップに立つも最後まで接戦でほぼ同時にチェッカー。0.006秒差で#72高橋が優勝。Audiではオープニングラップで前に出た#107 東京IRC Audi A1 イシカワヨシオ。そこに#107並木と#102 REALTRADING-LAB A1 阿野雅樹がコンマ差で追うが最終間際で

2番手争いが激しくなり、#106イシカワがそのまま逃げ切った。N1000も3台ながら激しいバトルの末にオープニングラップでトップを奪った#27 ALPHA IDIヴィッツの中村直樹が優勝した。各クラス優勝ドライバーはレース後、N1400 #72 高橋「前半では皆さんに泳がされちゃってタイヤを使ってしまいました。チェッカーの時にはもうダメかと思ったのですが、ヘアピンの所で電光掲示板に自分のゼッケンが上になっていたんで、優勝した！と思いました」N1000 #27 中村「キツかったです！スタートが上手くいったのが良かったのですがギリギリまで粘って勝てました。レースを始めて2戦目で優勝も初めて！嬉しいです」Audi A1 #106 イシカワ「スタートが上手くいきました。後ろも速いんでヒヤヒヤでしたが、途中から2番手争いをしてくれたのが良かったです」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト N1400

Rank No.	Name
1	72 高橋 ノボル
2	21 大竹 直
3	26 斎藤 和実
4	8 木村 洋輝
5	57 小山 正博



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト N1000

Rank No.	Name
1	27 中村 直樹
2	54 半田 健一郎
3	32 大石 進哉



Winner

2nd

3rd



RESULT リザルト Audi A1 Fun Cup

Rank No.	Name
1	105 イシカワ ヨシオ
2	107 並木 重和
3	102 阿野 雅樹
4	103 森 慎一
5	101 斎藤 浩徳
6	109 酒井 正和